

2021年度競技規則修改のポイント

2021年3月14日

競技運営委員会

中田光哉(JTO)

競技規則の番号体系変更

- ・WAは2019. 11. 1から変更
- ・国内では2020年度のルールブックで
CR(COMPETITION RULES)
TR(TECHNICAL RULES)
- ・2021年度から国内の番号体系もWAに合わせる
 - 1, 競技会全般に関わるものCR
 - 2, 競技(ルール)に関わるものTR

国内固有の番号体系

・従前条文番号	・新条文番号
第266条 日本記録と公認記録	(国内) CR37
第138条 アナウンサー	(国内) CR38
第139条 公式計測員	(国内) CR39

条文番号表記体系の変更

👉 変更前:「公用文」方式

第〇条	第114条
第〇条●	第130条1
第〇条●(a)	第170条6(a)

👉 変更後:「理科系の作文」方式

CR(TR)〇	CR7
CR(TR)〇.●	TR23.1
CR(TR)〇.●.△	TR24.6.1

主な競技規則の修正内容

CR8 ITOs(国際技術委員)

- 事由：表題部修正(国内)
- 目的：表題と記載内容の一致
(変更前)

ITOs(国際技術委員)

(変更後)

ITOs(国際技術委員)とJTOs(日本陸連技術委員)

○備考：

CR9 IRWJs(国際競歩審判員)とJRWJs(日本陸連競歩審判員)

CR16.1 技術総務

- 事由：新規追加(国内)

- 目的：役割の明確化

(国内)

4. 道路競技においては、コースの整備、用器具の配置等が競技規則や競技会の技術的・組織的計画に従っていることを確認する。

CR23.2 出発係

- 事由：一部追加(国内)
- 目的：内容の明確化
- 備考：レーンを使用しないでレースで選手を並べる際には、スタートラインではなく、その手前に並べていることを反映

(国内)

800mを超えるレースではスタートラインの後方約1mのところに並べる。

CR31.3.5 世界記録の要件

- 事由：一部追加(WA)
- 目的：内容の明確化
- 備考：世界記録公認にあたってのドーピング検査実施の厳格化

- ・競技者が世界記録又は世界タイ記録を樹立したら、競技終了後直ちにドーピング検査を受けなければならない。
- ・Anti-Doping Regulationsで認められている事由以外での遅延は認められない。
- ・400m以上の種目では、世界記録を承認するために収集された検体は、赤血球生成刺激剤(ESA)について分析。
- ・ドーピング検査に関連する文書は、入手次第、直ちにWAに送付。理想としては、記録申請の際に記載しなければならない世界記録申請書類一式と共に競技開催日を含め30日以内にWA事務局に発送の必要あり。
- ・ドーピング検査に関する書類はAthletics Integrity Unitにおいて審査。

TR4.3 同時申込

- 事由：わかりやすい文章化
- 目的：内容の明確化

競技者が、同時にトラック競技とフィールド競技あるいは2種目以上のフィールド競技に**出場している場合**には、審判長は1ラウンドに一度、走高跳及び棒高跳では各試技に一度、競技会に先立って決めた順序によらないで、その試技を許すことができる。もし、競技者が**その後の試技を行べき順序の際に不在の時**、その試技時間が過ぎれば、パス扱いとなる。

- (変更前)
- ・2種目以上のフィールド競技に参加する時には、
 - ・その後の**特定に試技に不在の時**

TR5.2 競技用靴①

- 事由：修正(WA)
- 目的：新規制定(2020.1、2020.7、2020.12改)
⇒【最新】 2020.12.4

○備考：厚底靴対応

最新規則でも「～2021.8.8」を移行期間(TR5.2
〈注意〉ii)としており、今後、更なる修正が予想され
ることに注意

TR5.2 競技用靴②

●靴の種類と要件、競技会での使用

種	類	要件・使用可否	競技場での使用
①小売りされてる靴 (≡WA承認靴)		・TR5の要件を満たし、販売され、 競技者が購入できる靴	可
②カスタマイズされた靴		・小売りされた靴をベースとし、競技者の 足に合わせてカスタマイズされた靴 ・TR5の要件遵守 ○：足幅を広げる、踵にクッション、色 を変える等 ×：WAが認めていない新技術の適用	可
③開発段階の試作靴		・靴メーカー販売可能段階前に特定競技者 でテストをしている靴(新技術の適用も含む)	WAの承認要
④オーダーメイドの靴		・個々の競技者の足や要望に合わせて 作成した唯一無二の特別に作られた靴	不可

TR5.2 競技用靴③

●国内競技会での対応

靴種類	対比
①小売りされてる靴 ②カスタマイズされた靴	・モデル名、靴底の厚さ、スパイクの数等を 確認(WA承認靴リスト、TR15.3、15.13.3等)
②開発段階の試作靴	・競技者から使用の申し出があったら、陸連事務局へ(WA承認書のチェック等)

⇒公認競技会(公認記録)では規則に適合した靴を使用していることが必要

- 非適合靴の使用は認められない
- WAへの記録申請の際、本人は適合靴であっても同レースに出た他の選手が非適合靴の場合、記録が認められないこともありうる

TR5.13.3 TR5.13.3 靴底の最大の厚さ①

種目	靴底の最大の厚さ (TR5.5、TR5.13.3)	要件・備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投擲種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、 800m未満の種目)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競争を含み、 800m以上の種目)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
クロスカントリ-	25mm	
道路競技(競走、競歩)	40mm	
マウンテンレースとトレイル レース(TR57)	制限なし	

TR5.5〔注意〕基準となる靴の大きさ①

○事由：実態にあわせた見直し

iii. 本条で規定している靴底の最大厚は、標準的な事例としてユニセックスサイズ42(EUR)の靴底の厚さに基づいている。

(変更前)

サイズ42(EUR) (=26.0cm)

(変更後)

サイズ42(EUR) (=26.5～27.0cm)

○備考：靴底の厚さの計測では「**多少の誤差がありうる**」ことを念頭に

TR5.5〔注意〕基準となる靴の大きさ②

○備考：靴メーカーによって、EURサイズとcmサイズはまちまち

【Nike】	【Adidas】	【Asics】
Men EU42=26.5cm Women EU42=27cm	区別なし EU=26.5cm	Men(T&Fシューズ) EU42=27cm Men EU42=26.5cm Women EU42=26.5cm

一般的に使用されている換算表を参考に競技規則上のcmサイズ表記を変更

26.5cmだったらEU42.0、UK8.5、US9.5を選ぶ

EU	26.5	27.0
UK	41.5	42.0
US	8.0	8.5
	9.0	9.5

TR5 競技用靴関連・実務対応

● 招集所

📄 靴底の厚さ、スパイクの数等の事前チェック

- ☆ 計測にあたっては「**多少の誤差がありうる**」ことを念頭に
- ☆ 規則に反する靴があれば、競技者に指導
- ☆ 必要に応じて、競技開始前段階で総務や各審判長と指導対象者等の情報共有を行う

● 審判長

- 📄 競技中の様子、競技結果で靴底の厚さ等に疑義があれば、トラック競技・フィールド競技を問わず、競技終了後に再チェックを行ってもよい

- ☆ 特に世界記録、日本記録等がマークされた場合
(≡投てき種目で日本記録が生まれたら、投てき物の再検査)

関東パラで使用していた器具(東京陸協)



TR5.10 アスリートビブス①

- 事由：一部追加(国内)
- 目的：実態にあわせた明確化・新広告規程反映

〔国内〕

(変更前)

- ii. アスリートビブス(ビブス)の大きさは、横24cm以内×縦20cm以内とし

数字の大きさは縦最低6cm～最高10cmとする。

(変更後)

- ii. アスリートビブス(ビブス)の大きさは、横24cm以内×縦16cm以内とし
個人を識別する文字や数字等の大きさは縦最低6cm～最高10cmとする。

TR5.10 アスリートビブス②

ii.

〔注意〕

競技会毎にビブスを作成する場合は、2021年月から新規格のものを使用する。

但し、以下のような場合は2023年3月末まで旧規格(横24cm以内×縦20cm以内)の使用は可とする。

- 中体連・高体連等で3年間、同一番号のビブスを使用している場合、在校生(2021年4月から2年生以上)の卒業まで(最長2年間)。

2021年4月からの1年生は新規格のビブスを使用する。

- 加盟団体に大量に旧規格の在庫がある場合。

iv. アスリートビブス(ビブス)の広告は、男女別及び種目別に分ける。

v. アスリートビブス(ビブス)の下部の大会名等は、縦4cm以内とする。

TR6.4.8 競技者に対する助力(認められる助力)①

- 事由:訳文の見直し(精緻化)
- 目的:内容の明確化

(変更前)

電子掲示や類似の器具による、関連する記録も含めた競技の経過時間の掲示。

数字の大きさは縦最低6cm～最高10cmとする。

(変更後)

電子ライトや類似の器具による、レースの進行時間や関連する記録の掲示。

〈例〉NN Valencia World Record Day (2020.10.7)

男子10.000m、女子5.000m 世界記録

TR19.24.5 トランスポンダーシステム

- 事由：修改正(国内・〔注釈〕追加)
- 目的：ネットタイムの取扱の明確化
- 備考：マラソン大会等でのネットタイムの扱いの実態反映

公認記録は「グロスタイム」であることに変更なし

〔注意〕

公式の時間は信号機のスタート合図(または同期したスタート信号)から競技者がフィニッシュラインに到達するまでの時間(グロスタイム)である。ただし、非公認ではあるが競技者がスタートラインを通過してからフィニッシュラインに到達するまでの時間(ネットタイム)を知らせてもよい。

〔注釈〕

大会主催者はネットタイムを参加標準記録の資格記録として扱ったり、エリートカテゴリーの競技者を除くランナーの順位付け等に活用してもよい。

TR23 障害物競走①

- 事由：訳文の精緻化
- 目的：WAに合わせた表記(記述箇所の移動)
- 備考：これまでの内容と変更なし

3000m障害と2000m障害を別項番で記載

それに伴い、これまで記載されていた場所が移動

- 23.2 3000m競走は、障害物を28回と水濠を7回越えなければならない。スタートラインから最初の1周に入るまでの間には、障害物を置かない。競技者が最初の1周に入るまでにあるその他の周に使用される障害物は、その間移動しておく。
- 23.4 2000m競走は、障害物を18回と水濠を5回越えなければならない。最初の障害物は周回の3番目の障害物の位置とする。それよりも手前にある障害物は、最初に競技者が通過するまでは設置しない。

TR23.7.1 障害物競走②

- 事由：訳文の精緻化
- 目的：内容の明確化

競技者は水濠を越えて、あるいは水濠に入って進み……

……次のことをすると失格となる。

(変更前)

水濠の外側に着地したとき

(変更後)

水濠のある場所で、**水濠以外の地面を踏んだとき(水濠の**

右側・左側を問わない)

TR29.3、29.5、30.1他 走幅跳・三段跳①

- 事由：修改正(WA)
- 目的：定義変更

適用開始時期変更 **〔国際〕2020.11.1～〔国内〕2022.4.1～**

●ビデオカメラ等による踏切の判定導入

- 📹ビデオカメラ等の機器の使用が可能に
- 📹ビデオカメラ等の機器の使用しない場合はこれまで通り、

粘土板を使用

●粘土板の粘土の角度

- 📹(変更前)45度
- 📹(変更後)90度

〔国内〕ゴム台座の「切り欠きタイプ」は継続使用可

TR29.3、29.5、30.1.1 走幅跳・三段跳②

●無効試技の定義(TR30.1.1)〔国際〕2020.11.1～〔国内〕2022.4.1～

(変更前)

競技者が踏切を行う際、跳躍しないで走抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で、身体のどこかが踏切線の先の地面

(粘土板を含む)に触れた時

(変更後)

競技者が踏切る際、跳躍しないで走り抜けたり、あるいは跳躍の動きの中で踏切足または踏切足の靴のどこかが、踏切板または地面から離れる前に踏切線の垂直面より前に出た時

TR39.8.5 混成競技

(訂正前)

混成競技での試技順や最終種目のレーン順は、技術代表または混成審判長が望ましいと判断した場合には、変更することができる。それ以外の種目の試技順やレーン順は抽選により決める。

(訂正後)

混成競技での最終種目のスタートの並び順やレーン順は、技術代表または混成審判長が望ましいと判断したとおりに決めることができる。それ以外の種目の試技順やレーン順は抽選によって決める。

2020年度全国競技運営責任者会議報告資料 C級審判員制度創設について

競技運営委員会 上村 卓
(日本陸連 JT0s)

資料 P110～148

1. 基本的な考え方

- 1) 審判員の高齢化、審判不足への対策 → 若い人材（高校生年代）の確保
- 2) B級審判員の下での位置づけであるが、補助員とは一線を画す。

2. 資格取得

- 1) 日本陸連に登録している、その年度内に16歳に達する者。（高体連登録者以外の者が希望する場合は、各都道府県陸協から登録する）
- 2) C級審判員取得者でその年度内に18歳に達する者は、B級へ昇格する資格を有する。
- 3) C級を取得せず、18歳に達する年度にB級を取得することも可能。

2. 資格取得の流れ

- 1) 時期・基準は加盟団体に一任。（モデルケース、講習会テキストあり）
- 2) C級審判員がB級に昇格する際には、新規B級審判員取得者と同様の講習会を受講する必要がある。
- 3) 加盟団体が高体連と連携して委嘱を行う。

3. 審判業務内容

- 1) 審判活動を行う際には、C級審判員のみで競技役員チームを編成してはならない。
- 2) 計測および判定については、B級以上の審判員が必ず1名以上ついて指導を行いながら業務を担う環境を作ること。

4. 識別・審判員手帳

- 1) 現行の審判員章と同デザインで色違いのものを作成。
- 2) 当面、既存の手帳を活用し、種別欄については余白で対応する。

5. 北海道陸協の対応

制度整備が不十分なところもあるが、とりあえずスタートしよう。

競技運営委員会③

担当者 万年 和紀

内容

- ◎競技会実施報告(・コロナ対策競技会 ・2回試技競技会 ・トラブル事例・・・国体)
- ◎記録申請・・・今年も100%でした。おめでとうございます。
- ◎記録用紙の改訂
- ◎広告規定の改訂
- ◎アスリートビブスの扱いについて
- ◎審判取得・昇格について(・報告 ・用紙の改訂 ・資料記入等の不備)
- ◎
- ◎その他

道陸協 競技運営委員会 (案)

・C級審判取得の流れ

【条件・・・16歳以上(2022.3.31現在)の高校生に限る。陸連登録者】

【取得までの流れ】

2021年	4～6月	C級審判取得案内資料配布	}	・各地方陸協 ・支部 高体連
	6～8月	講習会実施 ・(日本陸連からの資料あり 60～90分)		
	7～10月	実技研修実施		
	11月	北海道陸上競技協会へ申請報告	}	道陸協 競技運営 委員会
	12月	日本陸連へ申請報告		
	3月	道陸協から地方陸協へ審判手帳と胸章・ホルダー配布		
	4月	C級審判取得し審判員として活動開始 待遇・・・その他の審判員と同様の扱いとする		

・靴底計測について

【日本記録等の申請は靴底計測の記録が必要となる】・・・計測は競技者係で行う。

競技会について靴底の計測を行う・・・当面は記録の出そうな大会として、

- ・北海道選手権・国体選手選考会・高体連全道大会・全道高校新人大会
- ・中体連全道大会・全道ジュニア大会・その他全国大会に出場できる競技会(記録申請)

・アスリートビブスの扱いについて (サイズ変更)

- ①大会ごとに作成するアスリートビブスは、今年度の大会よりサイズ変更をしてください。
 - ②各陸協に在庫があり、使用が可能な場合は在庫がなくなるまで現状のままとする。(2～3年目途)
 - ③各学校・団体に在庫があり、十分使用が可能な場合はそのまま使用を継続しても良い。(2～3年目途)
- ※アスリートビブスは新規に作成する場合は、全て新サイズを適応してください。